

特

集

兵庫県内の児童等の 発育及び健康の状態について

～ 令和7年度学校保健統計 確定値概要 ～

健康診断の結果に基づき、毎年実施される学校保健統計の確定値（令和7年度分）が公表されました。

兵庫県内の学校における児童等の発育及び健康の状態が明らかになっています。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、令和2年度～令和5年度は、学校園における健康診断の実施時期が当該年度末まで延長されています（通常は4～6月に実施）。

本調査の数値についても、いずれの項目も調査時期の影響が含まれるため、令和2年度～令和5年度までの数値は、他の年度の数値と比較はできないことにご留意ください。

1 身長及び体重

～ 50年前（昭和50年度）と比べると概ね上昇傾向にあるが、大きな差はなくほぼ横ばいで推移 ～

幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の最終学年（5歳、11歳、14歳、17歳）における身長及び体重の平均値については、50年前（昭和50年度）から10年ごとの推移を見ると、身長、体重ともに、概ね上昇傾向にあるものの大きな差はなく、ほぼ横ばいとなっています。

表1

身長・体重の推移

区分		昭和50年度		昭和60年度		平成7年度		平成17年度		平成27年度		令和7年度	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
身長 (cm)	5歳	109.9	108.9	110.8	109.9	110.6	109.6	110.6	109.5	110.3	109.2	110.2	109.5
	11	142.2	144.4	142.8	145.6	144.6	146.1	145.1	146.3	145.1	146.3	145.6	147.3
	14	162.7	155.3	163.7	156.5	164.8	156.8	165.2	156.6	164.7	156.5	166.0	156.6
	17	169.6	156.2	170.4	157.8	171.0	157.9	170.9	158.4	170.7	157.9	171.1	158.2
体重 (kg)	5歳	18.7	18.2	19.1	18.7	19.2	18.7	18.8	18.5	18.6	18.3	19.0	18.6
	11	35.4	36.6	35.8	37.2	38.1	39.1	38.6	38.5	37.2	38.3	38.9	39.2
	14	51.0	48.8	52.6	49.4	54.1	50.4	54.5	50.5	52.8	49.3	54.6	49.5
	17	59.6	51.6	61.9	53.0	62.1	53.3	63.5	53.2	61.5	52.5	62.0	52.9

2 むし歯

～ 平成6年～7年度以降は、むし歯のある者の割合が減少傾向 ～

「むし歯」のある者の割合（処置完了者を含む。）は、幼稚園21.8%、小学校31.2%、中学校26.1%、高等学校34.3%となっています。

図1

むし歯の状況

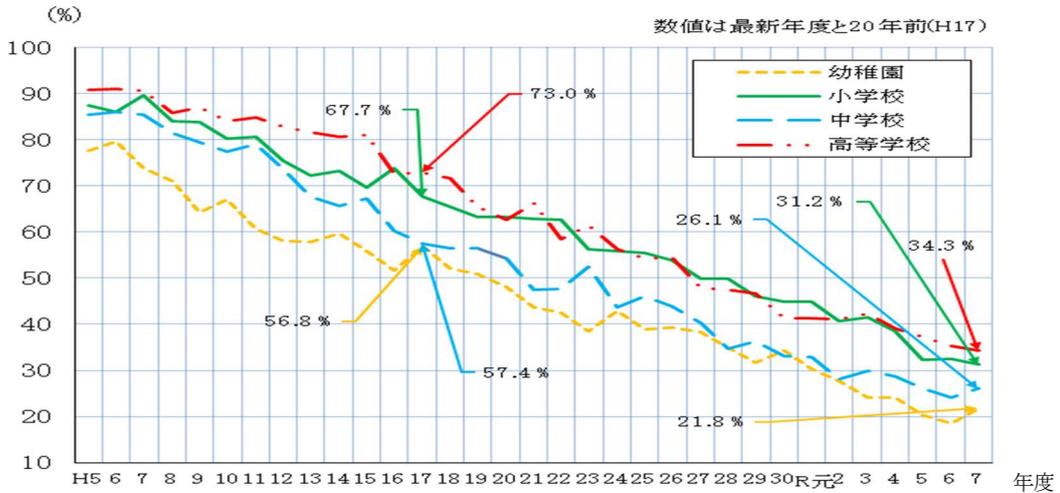


■未処置歯のある者 □処置完了者 □むし歯のない者

（注）図1の構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、総数と内訳の合計が一致しない。

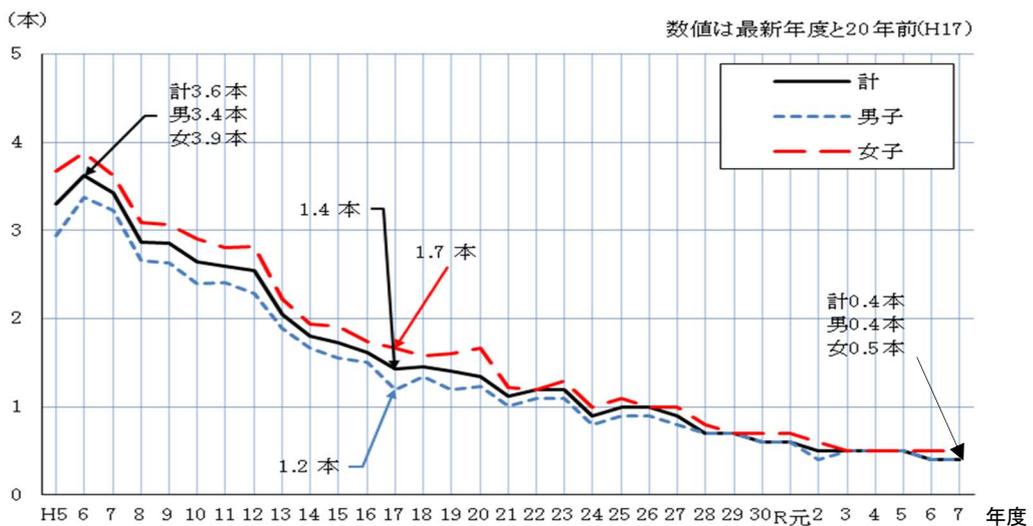
平成5年度には、70%台～90%台の割合でむし歯のある者がいましたが、平成6年～7年度以降は、どの学校種別においても減少傾向にあります。

図2 むし歯の者の割合の推移



12歳の永久歯の一人当たりの平均むし歯数は、0.4本となっています。平成6年度(3.6本)以降は減少傾向にあります。

図3 12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯数の推移

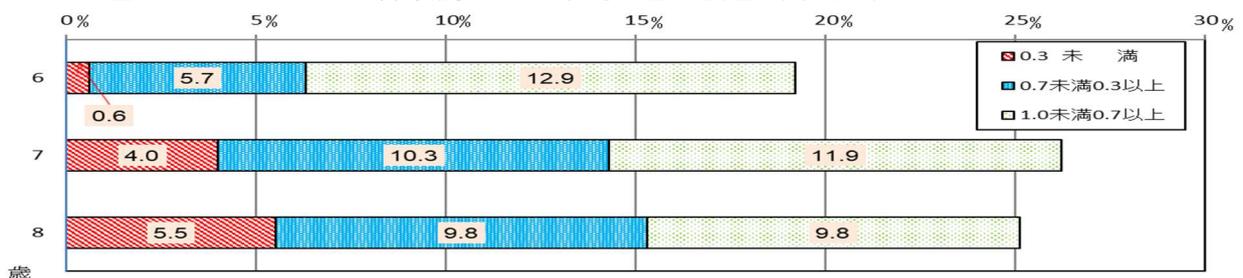


3 裸眼視力

～ 「裸眼視力 1.0未満の者」の割合は、年齢が上がるにつれて概ね増加傾向 ～

「裸眼視力 1.0未満」の者の割合は、6歳 19.2%、7歳 26.2%、8歳 25.1%となっており、年齢が上がるにつれて概ね増加する傾向にあります。

図4 裸眼視力 1.0未満の者の割合(年齢別)



(注) 裸眼視力については、視力を矯正している者（眼鏡等装着者）に対して、裸眼視力検査を省略した場合は、その学級全員（男女とも）を未受検者として取り扱うことから、他の項目に比べて受検者数が少なくなっています。
 なお、幼稚園については受検者数が50人未満、小学校、中学校、高等学校については受検者数が100人未満の年度は統計数値を公表しておりません。

4 アトピー性皮膚炎

～「アトピー性皮膚炎」の者の割合は、直近の10年間では、どの学校種別でも概ね1～2%台で推移～

「アトピー性皮膚炎」の者の割合は、幼稚園 2.1%、小学校 2.7%、中学校 2.0%、高等学校 1.9%となっています。

表2

アトピー性皮膚炎被患率

(単位：%)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成 18 年度	5.6	3.5	2.5	3.2
" 19 "	2.7	2.9	3.4	2.7
" 20 "	4.4	3.3	2.5	2.0
" 21 "	3.5	3.3	2.5	2.6
" 22 "	3.4	3.1	2.6	2.3
" 23 "	3.4	3.0	2.6	2.5
" 24 "	3.1	3.0	2.6	2.0
" 25 "	2.4	3.4	2.6	2.0
" 26 "	2.8	2.7	2.1	1.8
" 27 "	2.9	2.6	2.3	2.2
" 28 "	1.9	2.6	2.5	2.4
" 29 "	2.6	2.9	2.6	2.0
" 30 "	2.4	2.6	1.6	2.4
令和 元 年度	2.7	2.7	2.7	2.2
" 2 "	2.3	2.0	1.7	2.4
" 3 "	1.8	2.3	2.0	2.5
" 4 "	1.7	2.2	2.6	2.3
" 5 "	1.1	2.8	3.0	2.0
" 6 "	1.9	2.3	1.8	2.4
" 7 "	2.1	2.7	2.0	1.9

5 ぜん息

～「ぜん息」の者の割合は、直近の10年間では、どの学校種別でも概ね1～3%台で推移～

「ぜん息」の者の割合は、幼稚園 2.1%、小学校 2.4%、中学校 1.8%、高等学校 1.4%となっています。

図5

ぜん息被患率の推移



6 肥満傾向

～ すべての年齢で、肥満傾向児の出現率が全国平均を下回る ～

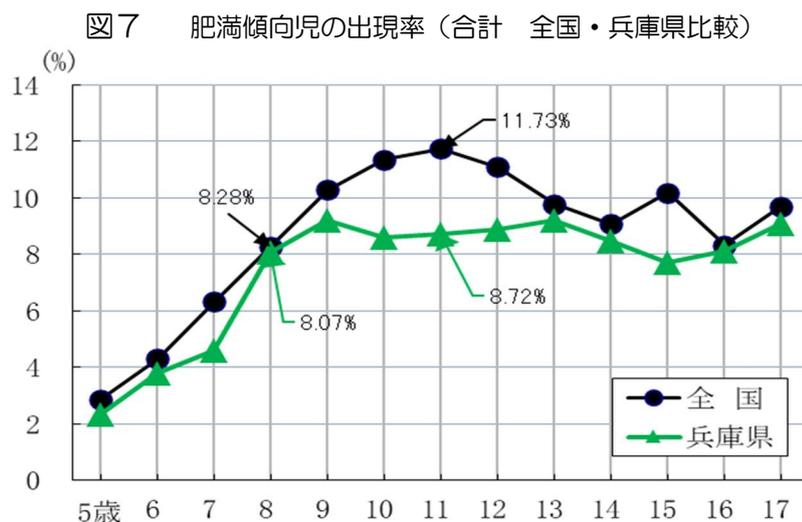
肥満傾向児の出現率は、男子は11歳の10.59%、女子は9歳の8.33%が、最も高くなっています。



(注) 「肥満傾向児」とは、性別・年齢別・身長別標準体重から求めた以下の肥満度が、20%以上の者をいいます。

$$\text{肥満度} = \frac{\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}}{\text{身長別標準体重}} \times 100(\%)$$

男女合わせた全国の出現率と比較すると、すべての年齢で全国値を下回っています。全国値との差が最も大きいのは11歳で、全国11.73%に対し8.72%と、3.01ポイント下回っています。差が最も小さいのは8歳で、全国8.28%に対し8.07%と、0.21ポイント下回っています。



統計表（時系列表）は、兵庫県ホームページ https://web.pref.hyogo.lg.jp/stat/cate3_720.html でも提供しておりますので、ご利用ください。